# フランス語の否定疑問文における叙法選択と否定疑問文の役割

井上大輔
上智大学大学院博士後期課程言語科学研究科言語学専攻

フランス語においては，Huot(1986)，Soutet(2000)，Korzen (2003)などの先行研究において，接続法と直説法の叙法選択は，que 節の内容を話者または文主語が主張している際に直説法が用いられ，それ以外の時に接続法が用いられるとされている。そして，もしこの主張が正しいとすれば，同じ否定疑問文であっても，Tu ne crois pas que P?のようにイントネーションに基づく否定疑問文と，Ne crois-tu pas que P?のように倒置に基づく否定疑問文では，接続法の出現率に差が見られるはずである。なぜなら，Borillo (1979)が述べるように，(1)のように倒置に基づく否定疑問文は，肯定的な答えのみが受け入れられる修辞疑問文として機能するのに対し，(2)のようにイントネーションによる否定疑問文は肯定的な答えのみならず否定的な答えも受け入れることが可能な真の疑問文として機能しているため，P の内容を話者が引き受けている倒置の否定疑問文では P は主に直説法が見られるのに対し，P の内容を純粋に対話者に訪ねているイントネーションによる倒置疑問文ではそのような偏りが観察されないはずだからである。

(1) N'es-tu pas t' de mon avis? R. Si/*non, effectivement.
あなたは私の意見に賛成ですか？　解答．はい／＊いいえ，もちろん。

(2) Tu n'es pas de mon avis ? R. Si/non, effectivement.
あなたは私の意見に賛成ですか？　解答. はい／いいえ，もちろん。

しかし，フランス政府の作成したコーパスである Frantext において Tu ne crois pas queP? と Ne tu crois pas que P?の例文を検索した所，倒置の否定疑問文である Ne tu crois pas que P?においては確かに直説法が多く観察されたが，イントネーションに基づく疑問文である Tu ne crois pas que P?においても，90 例のうち 2 例しか接続法は観察されなかった。このような現象が確認された理由に検討するために，croire に代表される意見動詞（verbes d'opinion）において Frantext で検索を行う。これが本発表の目的である。

参考文献

Borillo, A. (1979), "La négation et l'orientation de la demande de confirmation." Langue française 44, 27-41.

Huot, H. (1986), "Le subjonctif dans les complétives : subjectivité et modalisation" M. Ronat & D. Couquaux (eds) *La grammaire modulaire*, Minuit, 81-111.

Korzen, H. (2003), "Subjonctif, indicatif et assertion ou : comment expliquer le mode dans les subordonnées complétives ?"M. Birkelund, G. Boysen & P. Søren Kjaersgaard (eds) *Aspects de la modalité*, Niemeyer, 113-129.

Soutet, O. (2000), *Le subjnoctif en français*, Paris, Ophrys.